学校法人 福島成蹊学園
福島成蹊中学校･高等学校
令和４年６月 17 日　NO.5
文責　高２副担　藤田　大策

一 貫 コ ー ス 通 信

「人がヒトという種として生きること」

６月の一貫通信を担当します藤田大策です。今年で教員生活も 11 年目にとなり、中高一貫コースに勤務してからは８年目となりました。８年前の私は、恥ずかしながら自然科学の中でも生物を得意としておらず、中学生の理科を担当することが決まったときには、（現在実習生たちがひしひしと感じているであろう責任感を感じながら）生物の分類や生物の体の働き、そして生物の進化などについて、教科書はもちろん、文献を読んだりしながら勉強の日々を送っていました。本通信では、その学びの中で感動を覚えたことについてお話しいたします。

話の主題は生物－特にヒトの進化についてです。とはいっても進化論についての話ではありません。それは理科や社会の授業で学びましょう。私が感動を覚えたのは、“ヒトの進化の方向”についてです。

20～30 万年前、地球にはネアンデルタール人とホモサピエンスの２種の人類が生存していたのは皆さんご存じでしょう。しかし、約４万年前にネアンデルタール人は絶滅してしまいます。この理由の１つとして、“喉仏の位置”の違いが挙げられます。右図より、ホモサピエンスの方が低い位置に喉仏があることがわかるでしょう。そしてこれが何の違いを生むのかと言えば、それは「言語能力」です。喉仏が低いと気管が長くなり、様々な声を発することができるようになります。ホモサピエンスは、狩りにおいては声で連携し、一方で植物の根菜など食料のある場所を会話で共有しました。当然知識は子孫に継承されていきます。これこそが生存競争に勝つ秘訣だったといえます。

次に、霊長類の中でもヒトの大きな特徴として「白目」が挙げられます。下の２つの図を見れば、ヒトは白目の領域が大きいことがわかります。しかしこれは考えると不思議なことで、狩りをするときには狙った獲物に悟られないよう、白目がない方が有利なはずです。ではなぜヒトの目はこんなにも白目の領域が大きいのか。それは、何を、いや、誰を見ているかわかることで、より豊かなコミュニケーションをとるためだとされています。

私は、上記２つの進化について知ったとき、感動しました。ヒトはそのコミュニティを発展させるべく文化･歴史を継承し、そして豊かなコミュニケーションをとることで繁栄してきた種です。そう考えると、先人たちが人生をかけて残してきたあらゆる歴史を紡いで、未来につなげていきたい。そんな気がしてきませんか？